



## 第1回進路希望調査より④



今回は、第1回進路希望調査で保護者のみなさんが記入されていた「お子様の進路について、保護者の意見や担任への要望、質問」の中から多かったものをQ&Aで記載したいと思います。

### 第1回進路希望調査のQ&A【保護者編】

#### Q1 親として、何をしたいかわからない。

A 兄弟のおられる保護者は、高校入試を経験されている方が多いので、高校入試というもののイメージや流れがわかる方もおられますが、初めての保護者からは「何をしたいかわからない」という言葉を聞くことがあります。様々なことがあると思いますが、学校の教員として、保護者をお願いしたいことを以下の2点です。

#### ○ 学校説明会へお子様と一緒にいく

生徒たちには、学校説明会へ積極的に足を運びなさいと指導しています。保護者にもぜひ一緒に足を運んでいただきたいです。保護者も一緒に学校へ行くことで、お子様が感じる空気を共有することができます。保護者がある空気を知っておくことで、この先お子様が希望進路で迷った時もアドバイスをするときの言葉の信頼度が高くなります。何も知らない人の言葉と、空気を一緒に感じている人の言葉では、間違いなく一緒に感じている人の言葉の方が心に響きやすくなります。

また、個別相談会にも参加していただきたいです。高校の先生と話す際、この高校に入るにはどれくらいの成績が必要か、現在の成績ならどれくらいの可能性があるか、などかなり踏み込んだお話をすることができます。私立高校であれば、学校によっては、Q3に出てくる「推薦」の話なども聞いたり、学費について質問したりすることができます。特に学費の話は、お金に関する話になりますので、お子様では聞くことができません。

#### ○ 良きアドバイザーになる

「うちの子は進路について真剣に考えていない」「何も話してくれなくて不安」などというお話を聞くことがありますが、自分の進路について考えていない生徒は誰一人としていません。自分の人生がかかっているのですから、必ず考えています。ところが、何をしたいのかわからなかったり、自分の成績が悪すぎて考えることがイヤになったり、不安な気持ちを出すことができない生徒はいます。もちろん、甘い考え、楽観的な考えを持っていることもあります。だから、ご家庭では、ゆっくり落ち着いて正面を向いて座り、進路のことを話す場を作っていただきたいです。そして、お子様の思っていることを聞き、その上で、保護者の想いも伝えてください。最初はまったく違う考え（想い）かもしれません。しかし、お互いの考えを伝えることで、少しずつその隔たりが縮まっていきます。お子様の考えを頭から否定したり、保護者の考えを押し付けたりするのはよくありません。保護者はお子様にとって最も身近にいる「アドバイザー」です。常に相談しながら、本人が行きたいと思える学校を見つけてください。

それでも困った時には、我々学校の先生が「アドバイザー」として、お子様の想いと保護者の想いを聞き、アドバイスさせていただきます。遠慮なくご相談ください。

## Q 2 公立高校の受検方式を学校ごとに知りたい。

A 令和5年度入学者選抜の前期選抜等実施要項は、例年8月下旬から9月上旬に発表されます。今年度のもは、その時期までお待ちください。教育委員会より全員に冊子が届きますので、届き次第、配付いたします。

昨年度の前期選抜等実施要項をご覧になりたい場合は、以下のURLをご確認ください。

<http://www.kyoto-be.ne.jp/koukyou/senbatsu/zenkiyoukou2022>



## Q 3 「推薦」について知りたい。学費の免除について知りたい。

A まず、「推薦」については、公立高校にはありません。「推薦」に近い方式として、「前期選抜B方式」があります。「B方式」は、報告書、面接、小論文、活動実績報告書で検査する方式で、学力検査がないことが特徴です。各高校により、B方式が実施されない場合もありますし、実施されても求める生徒像が違いますので、詳しくは、Q2に記載している前期選抜等実施要項をご覧ください。

次に、私立高校の「推薦」についてです。「推薦」は「合格したら必ず入学する」ことを前提とする制度ですので、私立高校の中でも第1志望にだけ選択することが可能です。この「推薦」は、中学校長による「推薦」が必要な上、出願前に高校から「認可」を受ける必要があります。この「認可」には様々な条件があります。「評定で〇〇以上」や「部活動で特に優秀な成績を収めること」などがあり、その条件をクリアすると、学校によっては学費が全額免除（「全免」）や半額免除（「半免」）、入学金免除があります。

中学校には、8月下旬に今年度の正式な入試要項が入りますので、詳しい情報はその時期までお待ちください。ただし、Q1でも記載しましたが、私立高校の個別相談会に行ってください、現在の成績（2年の最終成績や3年1学期の成績）を伝えて、推薦などはありますか？と聞くと教えてもらえることがあります。気になる人は、個別相談会にぜひ参加してください。

## Q 4 公立高校の基準点について知りたい。

A 例として、前期は右表のような配点で検査が行われる公立高校があります。このうち、「報告書」とは中学校の内申点になります。だから、昨年度の本校から合格した生徒たちの評定平均はある程度わかります。しかし、内申点だけでなく、学力検査や面接の成績も判定に必要です。だから、仮にお子様の成績が昨年度の本校から合格した生徒たちの評定平均を超えていたとしても、絶対に合格できるとは言えません。よって、「公立高校の基準点というものはこれです！」ということは難しいです。

検査項目	配点	内訳
学力検査	150点	1教科50点満点×3教科
報告書	135点	9教科×5段階評価×3学年
面接	30点	
合計	315点	

では、我々学校の先生は何を進路指導の資料として使用しているかというと、「評定」「学習確認プログラムの成績」「校内総復習テストの成績」です。特に「学習確認プログラムの成績」は京都市・乙訓地域の中学3年生が全員受けていますので、どれくらい得点できるかによって、学力検査での得点力が見えてきます。これと「評定」を併せて見て、進路指導をしています。

なお、第1回学習確認プログラムの成績は、7月の三者懇談で保護者の方に直接ご説明しながら、返却を予定しています。

## Q 5 どれくらいの偏差値なのか知りたい。

A 「自分の偏差値はどれくらいですか？」「〇〇高校の偏差値はどれくらいですか？」という質問もよく聞かれます。「偏差値」とは、テストを受けた集団の中で自分がどれくらいの位置にいるかを表す数値です。例えば、英語と数学の得点がともに80点だったとしても、問題の難しさによって平均点は異なるので、どちらが良い結果だったのか判断が付きません。平均点を偏差値50になるように変換し、その基準からどれくらい高い（または低い）点数だったかを表したもので、自分の実力を相対的に把握できる数値が「偏差値」です。

だから、偏差値は受ける集団の学力や規模で変動します。また、Q4にも記載したとおり、当日の学力検査のみで判定されているわけではないので、「偏差値で実力を測ることが難しい」が結論です。

よって、中学校の「評定」をまず見ていただき、その上で「学習確認プログラム」や「校内総復習テスト」、あるいは外部の模擬テストなどで得点力を見ていただき、総合的に判断していただくのが良いと思います。高校の先生も「評定」を基準に話してくださるので、自分の通知表などを持って、説明会に参加してください。